

しんらんしょうにんえでん  
親鸞聖人絵伝

種 別	小松市指定文化財 絵画
指定年月日	昭和 50 年 11 月 1 日
所 在 地	細工町（本蓮寺）

親鸞聖人絵伝とは、浄土真宗の祖・親鸞聖人の事跡を場面ごとに絵で物語ったものである。本願寺第3世・覚如が著作し、その後それを模して多くのものが製作された。

本件の裏書きには文明16年（1484）という紀年銘と蓮如の花押があり、小松では最も古い絵伝である。信者に親鸞聖人の事跡を示し、小松において浄土真宗の教化に大きな役割を果たしたといわれる。彩色や描線に室町時代の特色がよくあらわれた良質のものである。

巻一では、慈円に従って出家し、法然の吉水禅房を訪れ、六角堂で夢告を受ける<sup>(1)</sup>。

巻二では、法然門下時の信行兩座や信心<sup>じょうろん</sup>諍論<sup>(2)</sup>などの場面をあらわす。

巻三では、既存仏教からの弾圧によって、法然が讃岐へ、親鸞が越後への流罪となる。親鸞は常陸稲田に移り、命を狙われながらも布教を進める。

巻四では、箱根権現の夢告を受け、帰京、遷化<sup>(3)</sup>の後に茶毘に付され、廟堂が造られる。

(1) 吉水禅房を訪れ、六角堂で夢告を受ける：本来の親鸞聖人の事跡としては六角堂での夢告の後に吉水禅房を訪ねている。著者の覚如の錯誤によると思われる。

(2) 信行兩座・信心諍論：いずれも法然門下時の逸話。数多くの法然の門弟の中で、親鸞はその教えを正しく理解する数少ない人物であったことを示すもの

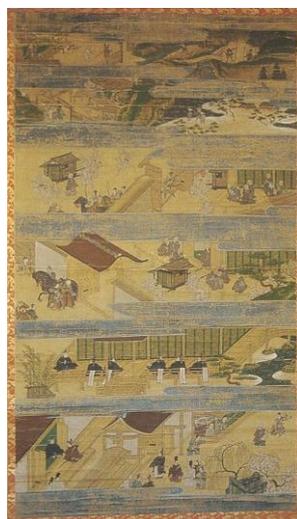
(3) 遷化：高僧の死去。



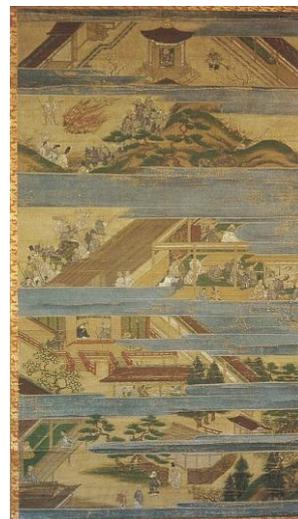
巻一



巻二



巻三



巻四